

二三三六番

はなはだも 夜ふけてな行き 道の辺の ゆ笹の
上に 霜の降る夜を

二三三七番

笹の葉に はだれ降り覆ひ 消なばかも 忘れむ
と言へば まして思ほゆ

二三三八番

あられ降り いたも風吹き 寒き夜や 旗野に今
夜 我がひとり寝む

二三三九番

吉隠の 野木に降り覆ふ 白雪の いちしろくし
も 恋ひむ我かも